

## 令和7年度 卒業式・修了式 理事長挨拶

はじめに、ご多用にも拘わらず、ご臨席を賜りましたご来賓の皆様に謹んで御礼申し上げます。本日、卒業式の挙行に際し、学園を代表致しまして一言ご挨拶を申し上げたいと存じます。

本日卒業を迎えられました皆さん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝い申し上げます。保護者の皆様にとりましても待ちわびた卒業式であり、安堵の気持ちかと存じます。壇上からではありますが、心からお祝い申し上げます。

さて、皆さんは創立者については教養演習やエントランスの銅像でしか知ることがないと思いますので、卒業を機会に再度認識して頂きましょう。

本学園の創立者二階堂トクヨ先生は大正元年、今から百年以上前に、文部省から英国留学を命ぜられ、約二年間にわたりロンドン郊外のダートフォートにあるバークマン・オスターバーク・フィジカル・トレーニングカレッジで学びました。帰国してのち、自らの学んだヨーロッパの新しい体育思想と方法論を推進しようと、私財を投じて本学園の前身である二階堂体操塾を創設しました。

トクヨ先生の教育目標は「人格的に優れた広い教養を身につけた体育指導者の養成」でした。その塾生の中に日本人初の女性オリンピックでメダリストの人見絹枝女史が居ました。トクヨ先生は体育を中軸に女子教育に邁進したのですが、人見絹枝女史のようにスポーツで活躍する選手もいた訳で、まさしく本学はこの時代から文武両道でありました。本学を卒業した多くの卒業生は、スポーツ分野での活躍は勿論のこと、体育教師をはじめ幼稚園・保育園の教諭として活躍し今日に至っております。

しかしながら、今や教員は生徒指導・保護者対応や事務的作業の多さから長時間労働になり、教員志望者が減少し公立学校での教員不足が問題になっております。教員という職業は人とひとが折り合いながら人を育てていく、素晴らしい職業だと私自身は思っております。本学は長きにわたって教員養成を行い、良き指導者の輩出に努力してきました。どうか皆さん、教員免許取得が出来た方は、将来ある児童・生徒に正面から向き合い、日本を支える事の出来る人材を育てて頂きたいと切に願っております。また、教員以外の職業に就かれる方もおられると思いますが、皆さんならではの新しい道を切り開き夢に向かって邁進してください。皆さんの努力と活躍を期待しております。

学園は百年のレガシーとして三年前に新棟の建設を行いました。皆さんもここ数年間は使用できたかと思えます。その大きな理由の一つは、トクヨ先生が創立時、施設の不十分さを嘆かれました。その想いを成就したいということ、また、学生はもとより地域住民と共同し、人生百年時代に向かって人々が健康で豊かな生活を享受できるに相応しい建設をしたいとの願いからです。そして、それが創立者の望みでもあったからです。我々が生きている

世の中は国際情勢、自然災害、技術革新といった変化が激しく、ITやAIの発展とネット環境の驚異的進歩により、人間本来の生物学的行動が損なわれていると危惧しております。そのことを含めて、我々体育を志した者の使命は大きいと実感しております。

今日卒業を迎えるにあたっては、諸先生方の厳しくも思いやりに支えられてのことでしょう。諦めずに努力しこの日を迎えられることは、皆さんにとって大変重要なことです。学生生活を振り返り、反省するべきところは反省し、ここまで成しえなかったことは今後に繋げてください。スポーツで培った忍耐力、努力する精神、仲間との交流で得た寛容な心を持っていればこの先の困難に打ち勝ち進んでいくことが出来ます。先ごろ日本初の女性総理大臣が誕生し素晴らしいことですが、日本はジェンダーギャップ指数 2025 年のデータによると世界 148 か国中 118 位と低く、未だに男性社会であります。皆さんは女性であっても自分の意志のもと、体操塾を開学した二階堂トクヨの DNA を受け継いでいると思います。本学で学んだことに誇りと自信を持ち、怯むことなくそれぞれの希望する道へ進んで行ってください。

世界を見れば戦争や紛争があり、決して平和とは言えない世の中です。皆さんにとって卒業後はまた新しい出会いと困難が待っています。どうか、将来どんな苦しいことがあっても、その激動をこれまでの学びを糧に乗り越えて行ってください。心から応援しております。

結びに当たりまして、これまで学生の就学をお支え頂きました保護者の皆様、教職員の皆様に心から感謝を申し上げ、挨拶と致します。

令和 8 年 3 月 15 日  
学校法人二階堂学園  
理事長 石崎 朔子